工芸 愛海詩 えみし

特別号　No.28
工芸・愛海詩の会
会　報
平成23年5月25日発行
編集発行人／工芸ギャラリー
佐藤睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

# 樂篆工房（福島県）

# 高橋政巳作品展

## ＝漢字の魅力と知恵＝

**5月31日～6月12日**

## 光と風のような人

未曾有の東日本大震災、みなさんの心にもさまざまな思いがあることでしょう。生命、生きること、絆、筆舌に尽くしがたい思いは語ることができず、ただ涙が自然とあふれる時があります。

今はやはり、現状を受け入れなければ前に進むことができない人が持つ強さと勇気と知恵を信じたいと思います。もっといえば人間のもつ英知を信じたいのです。私達一人一人は置かれている自分の立ち位置をよく考え、自分のできる事を、できる範囲で行動し、そしてまた、忘れず、祈りのように風のように心を寄せ続けることが何より大切だと思います。声を大に叫ぶだけではなく、だまって風のように成すことも貴いことだと思います。

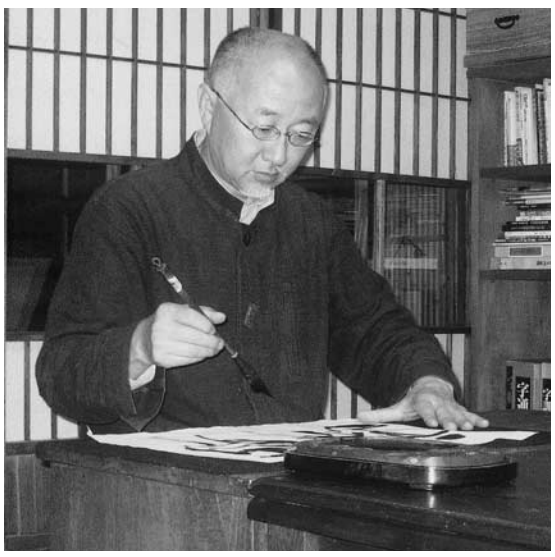
東日本大震災に関してだけではなく、いろんな場面で、いろんなことを声を大に言う人の話を聞くと、「どうも、おかしいなぁ」と思うことがあります。翻って、自分の方がおかしいのかな……とゆらぐ時もありますが、我に返ってすぐゆらぎはとまります。何か的がはずれている。そんな話しを延々と話してほしくありません。特に若い人などによくない影響を与えること大です。慎み、恥、底の浅さを知るべきです。

多くを語らなくても存在そのものが雄弁で心地好く、さわやかな風が吹くように、回りを明るくして陽だまりの中で懐しく遊ばせてくれるような人がいます。このような方とたまに会うと、うれしい一時をいただけます。そのような光と風をもっている人は聡明で、的確な言葉を自由に使いこなし、本当の強さをもっている人です。

私達はいろんな人とつながってこの社会に生かされています。直接的、間接的に誰かの役に立ち、誰かに助けられています。人は良き人と交わり、高められ、育てられ、人としての英知を知るのです。反面教師……というのもありますが、やっかいでも楽しくても人は人を通して成されて行くのです。

ギャラリー愛海詩にもみなさんの光と風を運んでいただけたらうれしく思います。それを私は職人・作家へ伝えます。相乗して、職人・作家達も良い作品を作って行くに違いない……。

（佐藤　睦子）


（創作中の高橋政巳）

刻字の草分け的存在で前国際刻字連盟初代会長の故長揚石氏に師事。

篆書を始めとする書を通じ、文字の持つ素晴らしい歴史的意味や美しさの伝承に幅広い活躍をしている。

また、木や石に漢字を彫る刻字家としても活躍。漢字の源である象形・甲骨・周時代の金文等を租形として、独自にデフォルメされたその創作的書体は、現代の漢字にはない新鮮さと人々を魅了する独特の美しさがある。お酒のラベル、題字、デザインなど、多くの作品企画も手がけている。

現在、毎日書道展審査会員、ＮＨＫ文化センター講師、日本刻字協会理事及び審査員、欣刻会会長を務めながら、意欲的に創作活動を続けている。

### ● 略　歴 ●

| | |
|---|---|
| 1947年 | 福島県生まれ |
| 1993年 | 毎日書道展　秀作賞受賞 |
| 1994年 | 同展　同賞 |
| 〃 | 日本刻字展　大賞受賞 |
| 〃 | 日本刻字展　審査員・理事に昇格 |
| 1995年 | 毎日書道展　毎日賞受賞 |
| 1997年 | 同展　秀作賞受賞 |
| 1998年 | 同展　会員に推挙 |
| 2001年よりＮＨＫ文化センター講師 | |
| 2002年 | 喜多方市に樂篆工房　開設 |
| 2005年 | 福島県刻字協会副会長就任 |
| 2006年 | ニューヨークにて出版記念の講演会、イベント開催 |
| 2010年 | 第62回毎日書道展　会員賞（刻字・グランプリ）受賞 |
| 〃 | イスラエル・ヘブライ大学にて書道講師を務める |

### ●主な著書

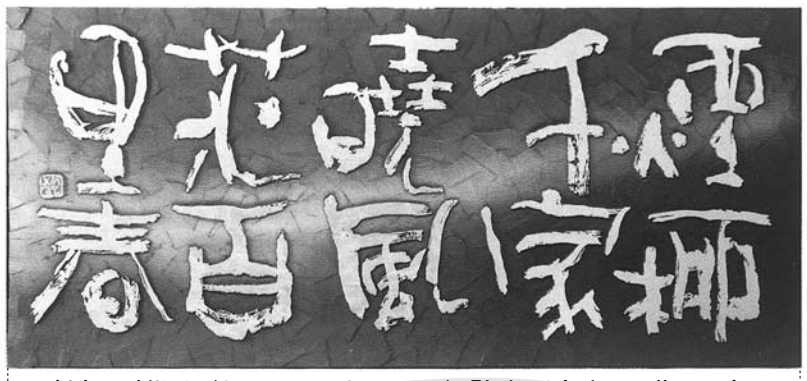
2003年「感じの漢字」（扶桑社）
2006年「感じる漢字」（扶桑社）
2011年「漢字の気持ち」（新潮文庫）

### ●高橋政巳氏を囲む夕食の会

**日時**：６月４日（土）
午後18時30分から

ご出席ご希望の方は５月31日（火）までにギャラリー愛海詩までご連絡下さい。詳しい内容は追ってお知らせ致します。

沢山の方のご参加お待ち申し上げております。


刻字・壁掛け（たて79㎝×よこ174㎝）「煙柳千家暁　風花百里春」
１つ１つの字が活きているような存在感があり、各々字の持つ意を語っているかのようだ。バックの墨色と金箔のコントラストが一層際立つ。

写真上、刻字・額（たて59㎝×よこ49㎝）
「白露横江　水光接天」
きれいなブルーのバックに金箔の字が浮いて額の中で遊んでいるかのようです。線の伸びやかさ、始まりと終わりのトメ、絶妙なバランスが絵画のようにも見えます。

写真右、刻字・壁掛け（たて30㎝×よこ21㎝）
「風」
この「風」、みなさんだったらどのように見えるでしょう。各々の風が吹くような刻字です。黒色をバックに金箔のかすれがよく映えます。こんな風を心の中に吹かせたくなるような…。

（雅子）　（霞菜）　（美智子）　（龍）

**落款印**
様々多様な落款があります。これを機会に高橋氏とご相談され、自身の、あるいは知り合いの落款を作られたら楽しいですね。

### 作家ご挨拶～作品展によせて～

この度、初めて作品展示と講演をさせて戴くことになりました。

「刻字」は耳に新しいかも知れませんが、書の分野の一つで日本で生まれて40余年とその歴史はまだ浅いものがあります。

以前は彫書・立体書・刻書・彫字…等、さまざまに呼称がありましたが「刻字」と統一され、現在は中国・韓国・日本・台湾・シンガポール・香港等漢字圏の国のみならず諸外国にも協会が設けられるなど、その人気は拡大の一途を辿っています。

毛筆で紙に記す平面的な書に対し、書を板に貼りノミで立体的に彫刻し更には着色を施す、まさに三位一体の幅広奥深い味合いが魅力です。

書の繊細な毛筆の線質と墨の濃淡や喝筆、滲み等の“筆意”を“刻む”という行為からは表現することができませんが、ノミの痕跡が刀意という新たな線質を表現し、その存在感はインテリアとしても従来なかった趣きを醸し出してくれます。

刻字作品の多くは、中国のいわゆる漢字以前の古代文字が多用されます。約4000年前の象形文字から始まり亀甲骨文・金文・石鼓文等、紙の出現以前は堅いモノで傷をつけて“彫る・刻む”で記されたものは、ノミで彫り込む行為と同じでよく似合うからでしょう。

しかし、現代用語の全てがこの時代に存在した訳では有りません。象形文字を組合せ（会意文字等）ることにより数多くの文字が生まれました。特に毛筆・紙の発達により殆どの場合、文字の発生した時代に合わせた文字形で表現することにしていますが、中にはどうしても古体で表現したい場合は、その文字が生み出された語源を探り、その形がどの様な変化を経て現在の形に到達したかを知ることにより、書こうとする全ての文字を時代を自由に移行することが出来ます。

刻字を楽しむことによって生まれた副産物が「漢字の語源」です。

古代文字が記された数ある辞書、あるいは碑文の拓本等を基調、参考にすることは表現が類似してしまいますが、語源を知ることで変化させることの許容範囲で独特のデフォルメが可能になります。

寡作な私にとって個展は苦痛の極みですが、この度作品は余り派手さや幅の広さはありませんが、シンプルでオーソドックスなものに絞りました。

こんな作品展を催して下さる佐藤様の度量の深さに心より感謝申し上げます。

古代文字を生み出した中国古代人のロマンと文字の背景に観える恐ろしいまでの哲学と倫理感を感じて戴ければ嬉しいです。

講演ではその辺りを熱くお話ししたいと思っております。

一人でも多くの方にお会い出来ますことを楽しみにしております。

（樂篆工房・高橋政巳）

高橋政巳氏、北海道で初めての作品展です。刻字を中心にして、その魅力を伝えたいと思います。

高橋氏とのご縁は一年ほど前に、愛海詩の会員で誠実なお人柄の郷間榮子様よりいただきました。早速高橋氏に電話をして話している内に「この方なら大丈夫…」と何か不思議なほどストンと腑に落ちたのです。この度、高橋氏とその作品をみなさんにご紹介できることをうれしく、また、誇りに思います。

高橋氏は漢字に魅せられて二十年、独自の世界を切り開いてきた道はけっして平坦ではなかったと思います。筆志と刀志、そこに込められた熱い思いはいかばかりかと……。

高橋氏の語り口はいつも穏やかでしなやかです。「平面的な筆使い、立体的な彫刻、絵画的な彩色、その三位一体の魅力は刻字がもつ魅力でもあります。それが作品展の見どころの一つです」また、「書は基本が大切。徹底的に理論、理屈を理解し、古典を繙き、そこから自身の字をつくって行くことが大切です」と語ってくれました。

感性の瑞々しいところをすくいとったような高橋氏の刻字、どうぞご高覧下さい。

### 高橋政巳講演会
### 『感じる漢字』

**日時**：６月４日（土）午前10時～11時30分
**場所**：教育文化会館４Ｆ講堂

チケット購入、お問い合せは工芸ギャラリー愛海詩までお電話あるいはＦＡＸを下さい。当日券はほとんどございませんので、チケットはあらかじめご購入下さい。

高橋氏は３日（金）、４日（土）、５日（日）ギャラリーに滞在しております。直接ご本人と交流していただければ幸いです。詳しい時間はギャラリー愛海詩までお問い合わせ下さい。